

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,680	t-CO <sub>2</sub>
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,680

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	1,928	t-CO <sub>2</sub>	1,754	t-CO <sub>2</sub>	1,843	t-CO <sub>2</sub>	1,636	t-CO <sub>2</sub>	1,680	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）			9.0	%	4.4	%	15.2	%	12.9	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	96.24	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	87.58	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	92.01	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	81.66	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	83.85	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>
削減率（対 基準年度）			9.0	%	4.4	%	15.1	%	12.9	%
原単位あたりのみなし排出量						kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>		kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>		kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>
削減率（対 基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

<p>目標値を上回る削減効果がみられた。                  空調機器や照明の更新、従業員の省エネ意識の向上、設備の稼働時間や来館者数の変動など、複合的な要因によると考えられる。</p>
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進 (冷暖房)	冷房温度28℃、暖房20℃に努める。 冷暖房区画の限定（不必要区画の空調停止） 令和4年のショッピングセンターの改装に伴い、2階の吹き抜け部分に天井を設置し冷暖房の効きを改善した。	建物管理委託会社に、具体的な取組内容を徹底させ、温室効果ガスの削減に努める。	必要箇所のみ運転。 閉店後の空調消し忘れ防止のため警備の巡回を強化。
省エネルギー・省資源の推進 (照明)	使用していない部屋や休憩時・時間外の消灯の徹底。 開店前の館内照明の区画毎の必要箇所のみ点灯。 従業員トイレの人感センサー内蔵機器への更新。 駐車場水銀灯からLED照明への更新。 営業時間の1時間短縮。 令和4年のショッピングセンターの改装に伴い、テナントにLED化を推進。（複数店舗が実施）	従業員への節電意識向上を図って、温室効果ガス削減に努める。 建物管理委託会社に区画毎の必要箇所のみ点灯を徹底させ、温室効果ガス削減に努める。 営業時間1時間短縮により、令和3年度比9%の削減を達成する。	売場以外の不必要な箇所の消灯を徹底。
省エネルギー・省資源の推進 (OA機器)	パソコン、コピー機の離席時及び退社時の電源オフに努める。		退社時には全て電源をオフにする。
廃棄物の排出抑制	両面コピー、裏紙利用によりコピー用紙を削減する。 オフィス古紙を分別、透明袋にてリサイクルとする。		書類の電子化も加速し、使用量自体が年々削減されている。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

設備の更新時には、省エネ性能や環境負荷低減に配慮した機器を優先的に採用する方針である。直近では空調や照明の更新時に高効率機器を導入。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

毎月8日は環境保全の日として、閉店後に全館放送を流し、速やかな退社を促す。
---------------------------------------